

まず行動を起こす

→ 共に考え行動する

→ 力をまとめる

→ 確かめ合う

1 【 よりよい研修環境づくりのための言葉掛け 】

先生方の表情や様子、研修の進み具合から、悩みを敏感に感じ取り、自分ができることは力になりたい。

問題解決のきっかけになるような言葉掛けをすることで、先生方のもっている能力をもっと引き出したい。

自分から声を掛けることで、お互いに研修しやすい雰囲気や良い関係をつくりたい。

研修について悩んでいる先生に対して、「どんな感じになりそうですか」等、日常的に声を掛け、構想の段階から相談に乗っている。

研修に関する相談では、相手の思いや願いを、できるだけ引き出し、具体化できるような助言を行っている。コーチング理論等を活用して本人の意欲を引き出し、具体的に本人から行動できるように助言している。

相談されることを待っているのではなく、自分から声を掛けるようにしている。特に研究授業の授業者には「一人で研修をしているのではない」という気持ちを抱かせ、安心して気軽に相談できる関係をつくっている。

↑ ↑ ↑

先生方の研修に関する悩みを敏感に感じ取り、自分から声を掛け、悩みを少しでも解消するようにしている。

2 【 研修意欲を引き出すための実践紹介 】

自分が進んで実践・紹介することで、研修の参考にしてほしい。

自分の作成したものがたたき台になればいい。

自分もっているものを共有し、役立ててもらいたい。

新しいことを提案する時には、紙面や言葉だけの提案ではなく、提案前に自分で実践をし、「うまくいきました。効果がありました。」という形で提案している。また、研究授業は進んで引き受け、以後の参考にってもらうようにしている。

先生方に報告書や原稿をお願いする際には、まずは「このような形を作ってみました」と自分で先行して作成し、参考にってもらうようにしている。

校内研修の時に限らず日頃から実践している指導方法や指導内容を「やってみました」という形で定期的に職員に紹介している。

↑ ↑ ↑

自らの実践を紹介することで研修内容を理解してもらい、職員の研修意欲を引き出している。

教頭

教務主任

学年主任

研修主任

まず行動を起こす



共に考え行動する



力をまとめる



確かめ合う

### 3 [ 研修成果を上げるための環境整備 ]

先生方が集まる場所を利用して、研修を意識させたい。

先生方が研修に関する話をしやすいように、皆が集まるスペースの目に付きやすい場所に研修棚を設置している。また、研修に関する本を手に取りやすい場所に置き、職員に貸し出しをしている。

日常的に研修の見通してをもって、取り組んでほしい。

職員室にある黒板を研修用の黒板として使用し、研修計画や進行状況、成果のあった取組の写真等を掲示している。

さりげなく職員の意識を研修の方向に付けたい。

職員室では意識的に授業の話題や児童・生徒の話題を口にするようにしている。また、研修を絡めた授業実践を意識して紹介している。

研修成果が上がるように職員室の環境を整えている。

### 4 [ 新たな視点で取り組んでもらうための手法や方策の導入 ]

現行のやり方に終始することなく、新たな視点での課題解決の可能性を紹介したい。

課題を解決するために、新しい方策を必要とする場合は、積極的に情報収集を行い、自ら先行して実践し、実践記録や指導方法を紹介している。

様々な角度から課題解決ができる方法を探りたい。

最新の教育情報をこまめにチェックし、自校の学校課題を解決するために最も有効と思われる手法や方策を紹介し、賛同を得られれば積極的に取り入れている。

内部だけではなく、外部からの情報にも敏感になり、課題を解決するきっかけになってほしい。

可能な限り、研修会や他校の研究発表会に参加するよう、職員に促している。また、参加後は全職員にできるだけ早く報告し、共有の財産にするようお願いしている。

学校課題を解決するための手法や方策を積極的に取り入れ、新たな視点で研修に取り組めるようにしている。

まず行動を起こす

⇒ 共に考え行動する

⇒ 力をまとめる

⇒ 確かめ合う

5 [ 管理職や教務主任、専門性のある教員との連携 ]

管理職と連携し、学校経営ビジョンの下、学校全体としてバランスの良い研修計画を立てたい。

校長先生や教頭先生と早い段階で研修について相談し、経営ビジョンを踏まえた研修内容、研修計画になるように調整している。

教務主任と連携し、教育課程上、無理のない研修計画を立てたい。

研修計画を作る際には、教務主任と連携を取りながら、研修に生かせるような教育課程の編成を考え、実践に向けて調整している。

専門性のある先生を研修の中に最大限に生かしたい。

研修の専門的な内容に詳しい職員と日常的に連携を取りながら、構想・計画の段階から一緒に研修内容について考えている。

研修の目標を達成するために、管理職や各種主任、専門性のある職員と連携をしながら、研修組織としての計画や段取りを調整している。



教頭

教務主任

学年主任

研修主任